

エゾタンポポ

Taraxacum hondoense

キク科



エゾタンポポ

名前の由来

「蝦夷」は、この種が北海道に多く生育することからつけられた。タンポポという読み方の語源については、白く球形の果実穂を、拓本などに使う、綿を布でくるんで丸めた「たんぽ」に見立てて「たんぽ穂」としたという説や、太鼓をたたいた音に由来するという説など、多数の説がある。漢字名：蝦夷蒲公英

形態的特徴

高さ20～30cm。葉は長く根元からのび、羽状に深く裂ける。茎上部の花に近い部分には綿毛が密生する。花は黄色で、舌状花とよばれる小さな花が多数集まって頭花を形成し、茎頂の一つずつ付く。頭花の下を覆う総苞と呼ばれるウロ

コのような部分が、上方に真っ直ぐのびて花に密着し、下へ反り返らないのが特徴。種子には白い冠毛が付き、全体が白く球形の綿毛状になる。

類似種と見分け方

セイヨウタンポポ。

セイヨウタンポポは、頭花の下にある総苞の外片が下方へ反り返るが、エゾタンポポでは上方に真っ直ぐのびて花に

密着し、下へ反り返ることはない。普通に見られるタンポポのほとんどはセイヨウタンポポで、エゾタンポポはごく少ない。



エゾタンポポの総苞



エゾタンポポの花



エゾタンポポの種子



セイヨウタンポポの総苞は反り返る



セイヨウタンポポの花



セイヨウタンポポの種子

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期		■										

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ユウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

日当たりのよい、山地や原野、海岸の草地に生える。

分布：日本固有種のため、国外には分布せず。
国内分布は、中部地方から関東・東北・北海道。
北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい、山地や原野、海岸の草地に生える。



エゾタンポポ。日当たりの良いところに生える

生活史

開花時期：5～6月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■在来のタンポポにはたくさん種類がある。エゾタンポポ、カントウタンポポ、カンサイタンポポなど、その数は22種類にもなる。

■セイヨウタンポポが増えたためにエゾタンポポなどの在来のタンポポが減ったと言われてきたが、最近の研究では、原因はセイヨウタンポポにあるのではなく人間による自然環境の改変にあり、それによってセイヨウタンポポが勢力を伸ばせる土地が増え、逆に在来のタンポポが生育できるような環境が減ったのだとされている。

■タンポポの仲間は花の後一度茎を寝かせ、タネが熟すと再び茎を持ち上げて、今度は花の時より高く茎を伸ばす。こうすることでより遠くまでタネを飛ばそうとしているの

だという。

■漢方では乾燥させたタンポポの根を蒲公英(ほこうえい)といい、煎じて飲むと胃痛や消化促進、催乳に効果があるという。タンポポを漢字で「蒲公英」と書くのはこのため。根を焦がして挽いたものは、コーヒーと同じようにいれて飲める。



エゾタンポポ。セイヨウタンポポと混生している様子



種子をつけたエゾタンポポ

配慮事項

生育している環境全体が重要である

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「図説 花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗
柏書房 1996

「日本のタンポポとセイヨウタンポポ」小川潔 どうぶつ社
2001

魚
類

底生
動物

両生
爬虫
類

トン
ボ

チ
ョ
ウ

樹
木

(在
来種)
草
花

(外
来種)
草
花

哺
乳
類

(水
辺)
鳥
類

(葦
原
樹
林
ワ
シ
タ
カ)
鳥
類